まちと人の想いが交わる情報交差点
広報こうさ
2024 September No.662

Kosa Style
こうさ スタイル

菊地 信二郎さん
Sinjirou Kikuchi

〔下横田区〕

キクチ シンジロウ/会社員だった40歳から本格的にソフトテニスを始め、60歳で全国大会に出場。母親の地元である甲佐町に住み60年。上益城郡ソフトテニス連盟の理事長・会長を長年勤め、現在は甲佐町ゴルフ協会の副会長も務めている。

日々成長していく子どもたちと共に歩いていく

「今回の受賞にあたり、私を推薦していただいたことに深く感謝申し上げます」と話すのは、7月に上益城郡スポーツ協会『功労賞』を受賞した菊地信二郎さん（町ソフトテニス協会長・下横田区）。賞は長年スポーツの振興に貢献し、顕著な功績を残した者に贈られるもので、平成15年には日本ソフトテニス連盟および熊本県ソフトテニス連盟からも功労賞を受けている。

菊地さんとテニス競技との関わりは、小学校3年生時にさかのぼる。清和村（現山都町）で生まれ、教員であった父親の影響で兄弟と共にテニスを始めた。中学生のころには県大会で3年連続優勝するなど輝かしい実績を残す一方で野球部や駅伝部にも所属し活躍した。多忙だった部活動について尋ねると、当時通っていた学校は生徒が少なく、それが普通だったそう。

菊地さんが代表を務める甲佐ジュニアソフトテニスクラブには、町内外から小学校の児童約25人が参加している。現在は指導を若手コーチに託し、自身はクラブ活動の準備や施設の管理など裏方の業務をこなしながら、子どもたちとスポーツの楽しさを共有している。

菊地さんは、甲佐中学校の外部コーチとしても16年間の指導経験を持つ。「プレーヤーとして自分で競技することよりも、日々努力を重ねる子どもたちと共に県大会などの目標に向かって挑戦していくこと、選手として、人として成長していく子どもたちと共に歩いていくことが、生き甲斐になっているようです」と自己分析する。

そして、「スポーツには精神の強さが不可欠。継続することの重要性に加え、指導においては練習中の態度や行動の適正さを特に重視しています。だからこそ、ときにはコートいっぱいに響く声で厳しく注意することもありました。一瞬の気の緩みがミスや事故に繋がるからです」と自己の指導哲学についても語ってくれた。

クラブチームが練習を行っている熊本甲佐総合運動公園のテニスコートの建設に際しては、基本設計および施設運営に関するアドバイザーを務めた。コート数8面という充実した施設設置を実現できたのは、菊地さんの助言あってのことだ。町ソフトテニス協会が開設を記念して始めた『甲佐リバーサイドソフトテニス大会』は町内外から約80人の参加者を集め、今年11月には第3回を迎える。

スポーツは人々の心身の健康保持・増進に大きな役割を果たすと共に、子どもたちの自己責任力や克己心を培うと言われる。

「スポーツを通じた地域活性化と明日を担う子どもたちのためにこれからも力を尽くしていきたい」と話す菊地さんの目には、活気にあふれた未来のまちが映っている。

発行 甲佐町
発行人 甲佐町長 甲斐高士
編集 企画課
TEL 096-234-1111（代表）
FAX 096-234-3964
URL https://www.town.kosa.lg.jp/

UD FONT by MORISAWA